


# おおたかの森ファームの授業 で目指すもの： 子どもたちの未来を育む大切 な体験

「分け与えることは、自分を豊かにする」——体験を通じて学ぶ意義

この授業では、「分け与えること」が単に何かを失う行動ではなく、それが他者の喜びに繋がり、最終的には自分に返ってくることを子どもたちに実感させます。特に低学年の子どもたちは社会の仕組みをまだ十分に理解していません。そのため、分け与えることの葛藤や、結果として得られる喜びを体験を通じて学ぶことに大きな意義があります。

 おおたかの森ファーム

代表取締役 須賀 孝太郎



# 授業の目的

## 体験を通じて学ぶ協力と分け与えの本質



**目的1: 自分の役割を知り、行動が社会に与える影響を理解する**

子どもたちがそれぞれの行動がどのように全体に影響するのかを体験し、自分の役割を見つけます。



**目的2: 協力と相互扶助の価値を体験する**

「分け与える」行動が個人の利益を超えて、社会全体の「暮らしやすさ」を生み出すことを体感します。



**目的3: 分け与える結果が返ってくる喜びを学ぶ**

分け与えた結果として得られる「みんなで楽しむ喜び」を実感します。



# 授業の意義

## なぜこの授業が必要なのか

子どもたちは「惜しい」「手放したくない」という感情を自然に持っています。この授業では、その感情を否定せず、手放した後に得られる新たな価値を体験させます。

協力や支え合いが結果として自分自身を豊かにすることを学ぶことで、単なるルールの理解を超えた「行動の意味」を知ることができます。

この学びは、子どもたちがこれからの社会を生きるうえで、自信や他者と共に生きる力となるものです。



# 未来を担う子どもたちへの贈り物

- 未来を生きる子どもたちに、「支え合い、分け与えた先にある喜び」を知ってもらうことは、私たち大人の使命です。
- この授業は、その使命を形にする一歩として、協力の大切さや「自分が誰かを助けることの素晴らしさ」を自然に伝える場となります。
- 子どもたちが「自分の力が社会を支え、分け与えることで社会全体の幸せを作れる」と気づく瞬間を、一緒に育みましょう。
- 「未来を生き抜く知恵と心の豊かさ」を届けるために、ぜひこの授業を実現しましょう！

# 授業の目標

## 分け与える行動の学び

目標: 分け与える行動が、自分と社会の幸福を高めることを学ぶ

## 目的2

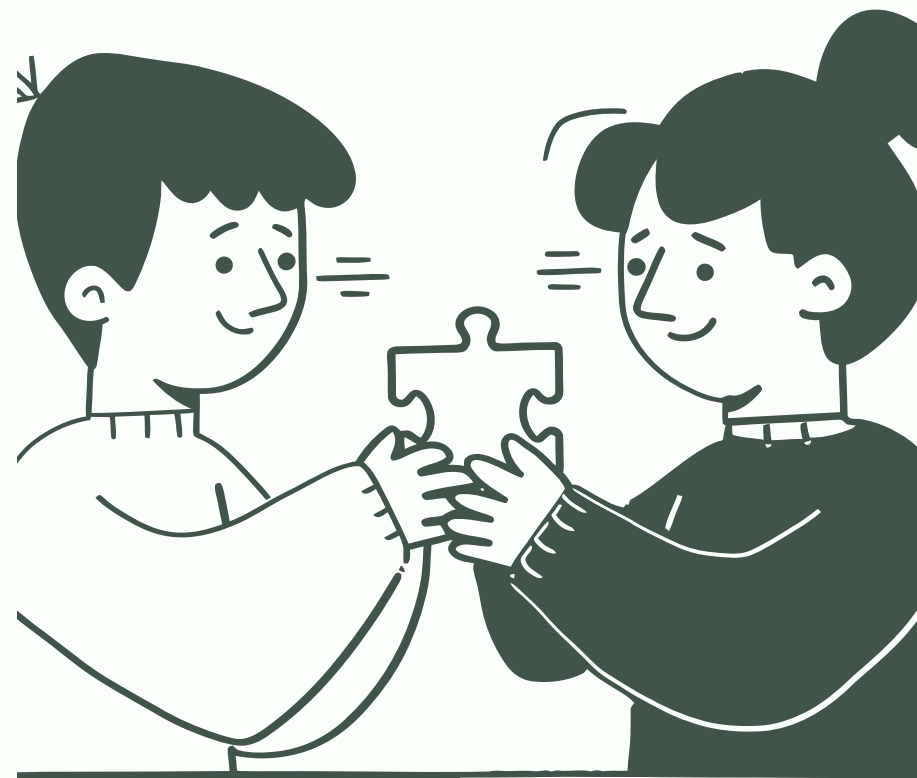
協力や相互扶助を通じ、個人の利益を超えた社会全体の「暮らしやすさ」を体験する。

## 目的1

自分の役割を理解し、その行動が社会全体にどう影響するかを学ぶ。

## 目的3

分け与えた結果、自分の「立場」が強化されるプロセスを実感する。



# 授業内容の構成

1

## 基本目的

- 社会ルールによる暮らしやすさの体感

2

## 実践方法

- 生徒たちが自分たちのルールを作成し、それに従って活動
- 各ルールが全体の利益にどう影響するかを検証
- それぞれの行動が他者や全体の生活にどのように影響するかを観察

3

## 期待される効果

- 自分の立場を明確に意識した社会参画
- 仮想社会での役割体験とルール作りを通じた学び

この構成により、授業の目的が明確化され、子どもたちが体験を通じて深い学びを得られる場を提供します。

# 仕事と役割：分け与える行動とその影響

他者に貢献する行動が、自分の価値や社会全体の幸福に繋がることを理解します。

1

## 1. 役割分担の体験

各生徒が仮想社会内での仕事を担当（例：生産者、消費者、管理者）

2

## 2. フィードバックの実施

各自の仕事が他者にどう貢献するかを確認し、相互評価を行う

3

## 3. 行動と結果の比較

利己的な行動と分け与える行動をそれぞれ実践し、結果を比較検討

4

## 4. 学習効果の確認

分け与える行動が他者との関係性を築き、自分の社会的立場を強化することを学ぶ

この体験を通じて、社会における相互貢献の重要性と、その実践方法を身につけます。

# 税と資本主義：分け与えの仕組み

1

## 目的

富の再分配を通じて、社会全体の暮らしやすさを維持する重要性を学びます。

2

## 方法

- 税のシミュレーション：
- 仮想社会内で「税金」を徴収し、インフラや共通資源の整備に使用します。
- 立場の比較体験：
- 税を払う側と受け取る側の両方の視点を体験します。

3

## 期待される効果

自分の行動が社会全体の暮らしにどう寄与するかを知り、**他者との立場の違いを理解することができます。**



# 社会活動：協力と競争のバランス



## 協力領域

目的: 協力が全体の暮らしやすさにどう寄与するかを学びます。

- 共同作業や共有施設（例: コインランドリー、共同選果場）の運営を模擬体験します。



## 非協力領域

目的: 自由競争が個々の努力と貢献の評価にどう繋がるかを学びます。

- 自由競争で成果を競い、個々の頑張りが全体にどう影響するかを比較します。

期待される効果：協力と競争を体験する中で、**自分が社会で果たすべき立場を発見することができます。**

# 対象者と役割

## 生徒



**目標:** 自分の役割を理解し、協力や分け与える行動を通じて「立場」を明確にします。

### 期待効果:

- 自分の得意分野を発見し、社会に活かす喜びを体験します。
- 他者との関係性を意識し、共感や配慮の力を育みます。

## 先生



**目標:** 仮想社会の「監督者」として、生徒が自分の役割や立場を体験するプロセスを支援します。

### 期待効果:

- 生徒の成長を観察し、教育の改善に活かします。
- 立場や役割を明確に理解させるための指導力を強化します。

# 授業の期待成果

## 立場を意識した行動力

自己の役割と責任の認識を通じて、社会における自分の存在意義を理解します。

1

## 社会的な視点の育成

協力と競争の調和を通じた成長により、より広い視野で社会を捉える力を養います。

3

## 分け与える行動の価値理解

相互協力による共生の仕組みを学び、社会貢献の重要性を体感します。

2

これらの段階的な学びを通して、生徒たちは社会における自分の立場を理解し、より良い未来を創造する力を身につけていきます。

授業の体験談はこちら



# さいごに

- 「分け与えることは、自分を豊かにする」。この考え方を、子どもたちが体で感じ、自分の中にしっかりと刻み込める授業です。まだ世の中の仕組みを十分に理解するには早い年齢の子どもたちだからこそ、分けることの葛藤や、分け与えた後の喜びを体験を通じて学ぶ意義があります。
- この授業では、働いて得たものを手放すときの「惜しい」という感情と、それがみんなのためになり、最終的には自分にも返ってくるという嬉しさの両方を体験してもらいます。その過程で、協力や分け与える行動がもたらす「みんなの喜び」を全身で感じ、理解することができます。
- 子どもたちにとって、これは単なる社会ルールの学びではありません。「みんなで支え合うと暮らしがもっと楽しくなる」という社会の仕組みの本質を、自分たちの行動を通じて知るのです。この学びは、今だけでなく、これからの人生でもきっと生きていく力となります。
- 未来を生きる子どもたちに、「**支え合い、分け与えた先にある喜び**」を教えることは、私たち大人の使命ではないでしょうか。この授業は、そんな使命を形にする第一歩です。子どもたちが協力の大切さや、自分の力が誰かを助けられることの素晴らしさを知る瞬間を、一緒に作りましょう！
- この授業を通じて、子どもたちに「**未来を生き抜く知恵と心の豊かさ**」を届けるために、ぜひご一緒に取り組みませんか？

